

地域外の人たちとの 関係づくり

いなかと♡いいなか 手引書



農村での関係人口が **重要な理由**

- ①地域外の人や若い人たちとの関わりで刺激を受ける
- ②外部の視点で地域に必要なことに気づく
- ③地域維持活動と一緒に取り組むことで人手不足をカバーできる

農村関係人口を増やしていくための5つのSTEP

地域に様々な形で関わりを持つ「関係人口」を創り出し、増やしていくためのステップについて、先行地域での取組事例をもとに解説していきます。



STEP 01 地域の魅力を整理・再確認

住民の「当たり前」は
外部の人にとっては
魅力的なことも

自分たちの住む地域の魅力は、分かっているようで、
分かっていないものです。その地域に長く住んで
いる人にとっては当たり前のことが、外部の人から
見ると新鮮で魅力的に見えることが多くあります。



農村では当たり前の清流も、都会の人にとっては魅力的です。



地区にある山の上から見渡す景色も大事な地域資源です。



地域の事業者が行っている事業や取組も大事な地域資源になります。



\\ 先行地域の声 //



地域住民の声

小さな頃から山も川も景色も、当たり前の
ようにあって何が魅力が分からなかった
ですが、外の人々が珍しがってくれる様子
を見て、改めて価値に気づきました。



関係人口の声

風景はもちろんですが、林道に生えて
いる植物の話やその地域のエピソード
がとても面白く感じます。

Point

- 1 地域資源の調査は、必ず外部の人を呼んで一緒に行いましょう。また、なるべく多くのスポットを案内するようにしましょう。
- 2 調査の前後では外部の人とご飯を食べたり、コミュニケーションもしっかりとることが大事です。そこからヒントが出てくることも多いです。

STEP 02 地域での話し合い

時間をかけて話し合い、 アイデアを出し合う

地域の取組を行うにあたっては、人によって色々な考えがあります。それぞれの意見を尊重し、みんなで納得できるよう時間をかけて話し合う必要があります。



話し合いでは、少人数に分かれて話すのも効果的。



ホワイトボードや紙に話した内容をまとめておくに便利。



自分たちが住む地域の映像や写真を皆で見る機会も大事。



Point

- 以下の3点に重点を置き、話し合いを進めていきましょう。
 - これからこの地域をどうしていきたいか？ ●今の地域の課題は？
 - どんな人にこの地域と関わってもらいたいのか？
- 話し合いにあたっては、できるだけ外部の人にも参加してもらいましょう。自分たちの視点だけでなく、客観的な視点で進行してもらったり、意見をもらうことが大事です。

STEP 03 企画を立てる

農村関係人口を創るための、 地域ならではの 魅力ある企画



地域の課題や目指したい方向性が決まったら、外部の人に振り向いてもらうための企画が必要になります。日本全国にはたくさんの農村がありますが、その中で振り向いてもらうためには、地域独自の特徴ある取組も必要です。

参考事例

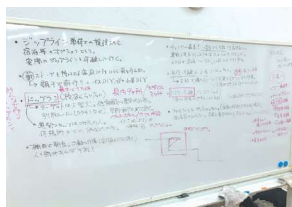
喜多方市本木地区

(きたかたしもときちく)

喜多方市本木地区では、江戸時代から続く棚田と水路を維持続けてきました。地域の高齢化に伴い、水路の堰浚いが継続できなくなる危機感から、外部の人を呼び共同で作業することを20年前に開始。その後、毎年5月上旬に30名前後が訪問してくれて、共同作業を行っています。

Point

- 無理をせずに、続けられる企画であること！
- 自分たちも楽しめること！
- 外部の人をお客さん扱いせずに、一緒にできること！



たくさんのアイデアがそろうだけでもワクワクします。



散策しながら林道の整備を一緒にやってみる、という案も。



たくさんの雪を活かして雪遊びを一緒にしようという案も。



棚田の中で農作業後に朝食を楽しむという素敵なアイデアも。

企画をカタチに！ 第一歩は、つながりの場を創る。

行動しなければ何も変わりません。地域内外の人たちに協力してもらいながら、つながりを増やしていくためのきっかけとして、まずは実践してみましょう。



方法① オンラインイベント

最近では、オンラインで日本全国の人たちと簡単につながることもできます。実際に来てもらうのが一番ですが、オンラインイベントで地域の魅力や情報を発信し、つながりを増やすことも有効です。



地域おこし協力隊の方に司会進行をお願い。



小さなビデオカメラとパソコンがあれば実施できます。

Point

事前に地域の食材などを送って、飲食しながら行うこともオススメです。ただ見ているだけでなく、地域のものを一緒に体験することが効果的です。

菊芋とサバ缶のオリジナル料理



参加者の顔が見えるよう、会場では、スクリーンに投影。



Zoomなどでオンライン会議のシステムを使うと簡単にできます。

方法② 体験ツアー

実際に参加者を募って地域を案内し、一緒に何か共同作業を行いましょう。ただの観光で終わってしまわないよう、これまでに話し合ってきた地域の魅力や助けてもらいたいこともしっかり伝えるようにしましょう。



日本に二人しかいない船軍笥(ふなたんす)職人の赤津さん

環境に配慮しながら地域の活性化を目指したEVバス



(地域の事業所の取組紹介)

<いわき市入旅人地区で実施>



地域住民と参加者で、キウイモの植え付けを行いました。



木の伐採現場を見学。迫力あるシーンに「おおー」という声も自然に出ます。



参加者全員が初体験だったそば打ち。苦戦しながらもおいしいそばができました。



夕食は黙食で。たくさんのお地元の食材が使われた夕食に参加者も大満足。

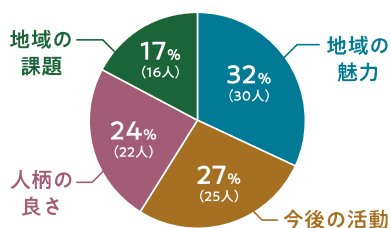
アンケートの実施

取組の実践後は、改善点を探るためにも参加者や地域住民の率直な意見を聞きましょう。



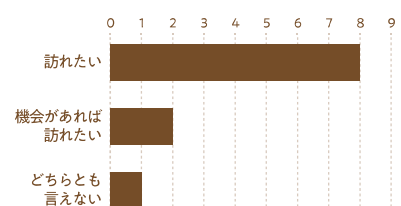
<オンラインイベント>

今回のイベントで興味を持ったことを教えてください。(複数回答可)



<体験ツアー>

この後も入旅人地区を訪れたいと思いますか？



つながりを持った農村関係人口と積極的に関わる。

イベントなどで知り合った人たちと、つながりを持ち続けることが大事です。積極的に自分たちから情報発信を行ったり、定期的に連絡をとるなどして、いい関係を続けていきましょう。



方法① 地域の便りやパンフレットなどの印刷物を送る

農村関係人口の人たちに、定期的に印刷物を送るのは基本的ですが大事な手段です。地域の様子や取組を伝え続けましょう。

Point

送り続けると、何年も音沙汰がなかった人から突然「今度行っていいですか」という連絡をもらうこともあります。



方法② インターネット上の交流サービス SNSを使う

最近では、SNSで簡単に地域の最新情報を発信することができます。また、SNSに備わっているメッセージ機能では、簡単に連絡を取ることも可能です。ぜひ、地域でSNS発信も行なってみましょう。

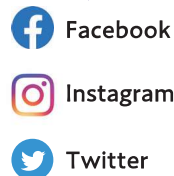


Facebook例



Instagram例

情報発信をするのに
便利なSNSの例



「いいね」やコメントをもらうことができます。そこから訪問につながることもあります。

オンラインイベント参加者から SNSに届いたメッセージ

こんにちは！
昨日のいいなか交流会に参加した〇〇です。
昨日はありがとうございました！
地域の4大イベント、ぜひ参加したいです！そこで、質問なんです、4大イベントに参加する際、イベント中の費用などはかかりますか？

Point

- 1 SNSは続けることが大事！あまり反応を感じなくても、見ている人はいます。継続は力なり。1日10分あれば投稿できるので続けていきましょう。
- 2 SNSのやり方が分らなければ、若い人や知り合いに教えてもらいましょう。「分からないから」で終わらせず、まずはチャレンジ！